

大西山崩壊地

山が動いた

1961(昭和36)年6月23日から降り続いた未曾有の豪雨により、伊那谷全域に被害をもたらせた三六災害が発生した。大鹿村では6月29日に、小渋川沿いにある大西山が大崩壊した。崩壊は高さ450m、幅500m、厚さ15mに渡り、大量の石や土砂が小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せた。濁流によって約30万㎡の宅地や田畑が消失し、家屋40戸が流され、42名の命が奪われた。



大西山の崩土が小渋川を堰き止め、一時はダム化した。40分後、土砂が決壊し、その濁流により多くの家屋や人が流されていった。

information

□ アクセス

松川ICから20km
車→40分

□ 所在地

大鹿村大河原



大西山とは

長野県下伊那郡大鹿村と豊丘村の境にある山。標高1,741m。天竜川水系の小渋川と青木川の合流点付近に位置している。

大鹿村の 地形・地質

大鹿村は南北に中央構造線が通っている。

中央構造線の西側一帯の岩石はもろくて崩れやすい鹿塩マイロナイトで、大崩壊をひきおこす。集落のある東側一帯ははく離しやすい結晶片岩で地すべりの多発地帯であった。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)